



2021年(令和3年)7月号

中野区立江原小学校 学校便り

校長 根来 郁明 児童数512名

学校教育目標自立し、共に生き、平和を求める子
『かしこく』『やさしく』『たくましく』**「安心・安全な学校」をつくるために****校長 根来 郁明**

先日は、お忙しい中、第七中学校区小中合同引き渡し訓練にご参加いただき、ありがとうございました。学校は、子どもたちが安心して通うことができる安全な場所でなければなりません。

1 自分で判断して、行動を選択する

江原小の通学路には、押しボタン式の信号機が設置されている横断歩道があります。そこでの行動は、大きく二つに分かれます。一つ目は「車が来ないのを確認して、赤信号でも横断する」、二つ目は「ボタンを押して、青信号になるのを待ってから横断する」です。子どもたちに質問すると、全員が「ボタンを押して、青信号になってから横断する」と答えますが、実際には、「赤信号で横断歩道を渡っている子どもたち」や「信号や横断歩道のない場所を横断している子どもたち」について、多数報告されています。

社会や文化の違いによって、正解は必ずしも一つとは限りません。他の国では、「車が来ないのに渡らないで待っていることがおかしい」と考える文化もあります。どちらの行動が正しいのかを論じるよりも、本当に大切なことは、時と場合、場面に応じて、複数ある行動の選択肢の中から、自分の判断で行動を選択することです。特に生死を分ける行動では、一瞬の判断力が必要とされます。自分で判断して、行動を選択する体験が大事だとはいえ、もし事故にあってしまったらと考えると、学校では「ボタンを押して、青信号になるまで待ってから横断する」指導をします。複数ある行動の選択肢の中から、自分で判断して、より安全に、より確実に、事故にあわない行動を選択できる子どもたちを育てていきます。

2 想定外を想定する

6月16日(水)、朝方の集中豪雨で、妙正寺川に「氾濫危険情報」が発表されました。妙正寺川は、洪水予報河川に指定されており、気象庁と東京都が共同して、洪水時の自主避難の判断等に活用するために氾濫危険情報を発表しています。妙正寺川の2か所の観測点のいずれかにおいて、1時間以内に氾濫危険水位に達すると予想された場合に発表されます。これは危険な場所からの避難が必要となる警戒レベル4相当の情報で、いつ氾濫してもおかしくない状態、避難等の氾濫発生に対する対応を求める段階になります。

例年、各地で想定外の記録的豪雨が観測されています。妙正寺川は、大雨時の水位上昇が極めて速いため、洪水予報発表後、短時間で河川が氾濫するおそれがあります。上流の杉並区で集中豪雨があった場合も、川の水位が上昇することあります。想定外を想定することは非常に難しいことですが、子どもたちや教職員の命を守るためには、起こる可能性がある災害や事件・事故を想定して、今までの対応策を見直していきたいと思えます。

水害に限らず、地震や火山の噴火、台風といった自然災害は、日本のどこにいても起こります。もしもの時、命を守るためには、防災に対する知識を身に付け、日頃から備えを整えておくことが大切です。普段から、どこに避難するのか、どうやって避難するのかを考えたり、話し合ったりしておくことが大切です。夏休みの機会に、「防災ノート」や「東京マイ・タイムライン」等を活用して、災害から身を守る方法について、ご家族で話題にいただければと思います。